

平成 28 年 10 月の解説（府県天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が強く、日本付近には湿った空気が流れ込みやすくなりました。このため、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。3 日は台風第 18 号が猛烈な勢力で沖縄地方に接近し、5 日にかけて対馬海峡を通過し日本海へ進んだため、沖縄・奄美、西日本から北陸地方にかけて暴風雨となり、大雨となったところがありました。また、3 日から 4 日にかけて発達した低気圧が北海道付近を通過したため、北日本では大荒れの天気となりました。8 日は九州地方を中心に南から暖かく湿った空気が流れ込んだため大雨となったところがありました。気温は、日本付近に暖かい空気が流れ込みやすかったため、東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高くなりました。

中旬は、旬の前半に北・東日本付近を冷涼な移動性高気圧が通過することが多かったため、北・東日本では晴れの日が多くなり、西日本では曇る日が多くなりました。沖縄・奄美では、前線や南から湿った空気が流れ込みやすかったため、曇りや雨の日が多くなりました。旬の後半は、北・東日本では、17 日頃に気圧の谷や前線の影響で天気が崩れたほかは、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。また、西日本と沖縄・奄美では、気圧の谷や日本の南海上の前線の影響で曇りや雨の日が多く、16 日から 17 日にかけては暖かく湿った空気の影響で大雨となったところがありました。気温は、旬のはじめは冷涼な移動性高気圧の影響で北・東・西日本で低くなったものの、その後は南から暖かい空気が流れ込んだため、旬平均気温は沖縄・奄美ではかなり高く、東・西日本では高くなりました。

下旬は、北日本では、冬型の気圧配置が強まったため、日本海側では寒気の影響で曇りや雨または雪の日が多くなりました。西日本では南から湿った空気が流れ込んだため、曇りや雨の日が多くなりました。22 日から 23 日は西日本の南岸を低気圧や前線が通過したため、九州地方で大雨となったところがありました。沖縄・奄美では高気圧に覆われ、晴れの日が多くなりました。気温は、南から暖かい空気が流れ込んだため、沖縄・奄美、西日本ではかなり高くなりました。一方、北日本では、強い寒気が流れ込んだため、気温はかなり低くなりました。

月平均気温は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり高くなりました。月降水量は、西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなった一方、北日本太平洋側、東日本で少なくなりました。月間日照時間は、北日本太平洋側でかなり多く、沖縄・奄美で多くなった一方、北日本日本海側、西日本でかなり少なく、東日本太平洋側で少なくなりました。

【10 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 1 ポイント低い 84%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント低い 79%でした。各地方の適中率では、明日予報については、北陸地方で 6 ポイント高くなり、九州北部地方で 7 ポイント低くなった他は、概ね例年と同様でした。明後日予報では、北陸地方で 6 ポイント高くなり、九州北部地方で 9 ポイント低くなった他は、概ね例年と同様でした。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.5 となり、全ての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.2 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の天気予報の利用にあたって】

12 月は本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪なる日が次第に多くなり、北日本はもちろん東・西日本の山沿いや日本海側でも大雪となることもあります。

低気圧が発達しながら日本付近を通過した後、強い冬型の気圧配置となるとときには、北日本を中心に暴風や暴風雪、高波、大雪、路面の凍結等により、鉄道や航空機、船舶の運休や欠航、道路の交通障害といった交通機関への大きな影響、また、停電などの被害が発生するおそれもあります。各地の气象台で発表される最新の気象情報や注意報、警報等に留意し、事前の備えをお願いします。